

門司メディカルセンター 地域医療連携室だより



当院における糖尿病治療の 取り組みと特徴について

門司メディカルセンターの糖尿病・膠原病内科での糖尿病担当医は、日本糖尿病学会/日本内分泌代謝学会/日本甲状腺学会専門医1名、内分泌代謝学会専門医1名、内科学会専門医2名の4名、リウマチ・膠原病担当医1名の計5名で診療を行っています。

メディカルスタッフは、認定看護師1名、日本糖尿病療養指導士（CDEJ：Certified Diabetes Educator of Japan）5名（看護師、薬剤師）、地域糖尿病療養指導士（LCDE：Local Certified Diabetes Educator）5名（看護師、管理栄養士）で治療に当たっています。

その特徴として4点をご紹介します。



門司メディカルセンター
副院長/糖尿病・膠原病内科部長
新生 忠司

一つ目は、**当院の糖尿病教育入院の取り組み**についてご紹介いたします。

当院では、以下の糖尿病教育パス入院のコースがあります。

①週末2泊3日短期教育パス入院、②1週間教育パス入院、③2週間教育パス入院、④3週間教育パス入院があります（図1）。患者さんの血糖コントロールの状況とともに勤務や生活の状況も踏まえた上での教育入院を選べるメリットがあります。①に関連して、当院の糖尿病チーム（医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、医事課）での①の短期教育入院について、「2型糖尿病患者における週末2泊3日糖尿病短期教育パス入院による血糖コントロール改善効果に関する検討」（糖尿病プラクティス 38:245-250、2021）について報告します。糖尿病患者を早期から教育し、生活習慣を是正することは、合併症の進展を防ぎ、寿命の確保はもとより、QOLの維持につながり、医療費の節減という観点からも重要です。様々な理由で教育入院の期間を長期に確保できない糖尿病の方を、主な対象とした週末2泊3日糖尿病短期教育パス入院プログラムを作成・施行し、入院前→入院3か月後の血糖コントロール改善効果について検討しました。対象は、健診等で診断された2型糖尿病患者で、経口糖尿病薬内服中のものも含まれます。スケジュールに従って2泊3日（金曜入院、日曜退院）の入院期間に集中的に食事・運動・薬剤・生活指導を含む療養指導（糖尿病教室）、DVD学習、血糖6検/日測定しました。糖尿病療養指導士のスタッフを中心に、3日間指導に当たります。背景は、20症例（男9例、女11例）。勤労者は9例（会社員6例、自営業2例、パート1例）でした。罹病期間は約4.5年と比較的短い方でした。**結果は、（図2）に示す通り、HbA1c、空腹時血糖が有意に改善しました。**入院前後で間食が減った、運動が増えた、飲酒が減った等人的割合が増え、食生活を中心

とした生活習慣の改善が見られました。アンケート結果からは、治療も継続できそうとの肯定的な意見が多く、治療意欲の向上にも寄与したと考えられます。当プログラムは、入院期間が短く、費用負担が少ないことから経済的に厳しい人、週末を利用する点では勤労者に適したプログラムです。もちろん、インスリン導入、GLP-1 受容体作動薬の通常の教育入院または外来での導入指導も行っています。

二つ目は、**持続グルコース測定器**についてです。高血糖・低血糖を繰り返す方の血糖コントロールの改善できること、インスリン量を8割程度に減量できることなどのメリットが期待できます。持続グルコース測定器については、現在リブレ2を導入しており、インスリン使用の方はスマホでいつでも自身の血糖値を確認することが出来ます。これを外来で装着して外来、入院での血糖の推移を比較して食事、運動療法、治療薬の適正化を行っています。

三つ目は、**糖尿病センター**として、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、脳外科、眼科、歯科、皮膚科、整形外科とも連携して、施設完結型の合併症の管理を行っています。

四つ目として、**当院は肥満症治療の認定施設（日本糖尿病学会教育認定施設Ⅰ、内分泌代謝・糖尿病内科領域としての認定施設）です。**（表1）に該当する対象の方をご紹介いただくと、まずは6カ月間の栄養指導が必須となります。その後、目標体重までの改善が見られなければ、GLP-1（/GIP）受容体作動薬による加療を行います（保険診療内での加療のみ）。当院の肥満症外来については、毎日（土日祝日を除く）8時30分～11時、月水金：循環器内科（渡部）、火木：糖尿病・膠原病内科（新生）で行っています。受診は、予約制になります。

以上当院では、“経験豊かな専門スタッフがチームで血糖改善！”を合言葉に、チーム力を生かした糖尿病教育入院を行っています。いつでも気軽にご連絡ください。ご紹介をお待ちしています。

糖尿病教育入院（図1）

**パンフを配布
して紹介**

あなたの生活に合わせて
入院期間が選べます



糖尿病は自己管理が大切な
病気です。教育を受けることによっ
て、今後の病気の経過が大きく変わ
ってきます。
自分に合った方法で頑張ってみませ
んか。
一緒にお手伝いします。

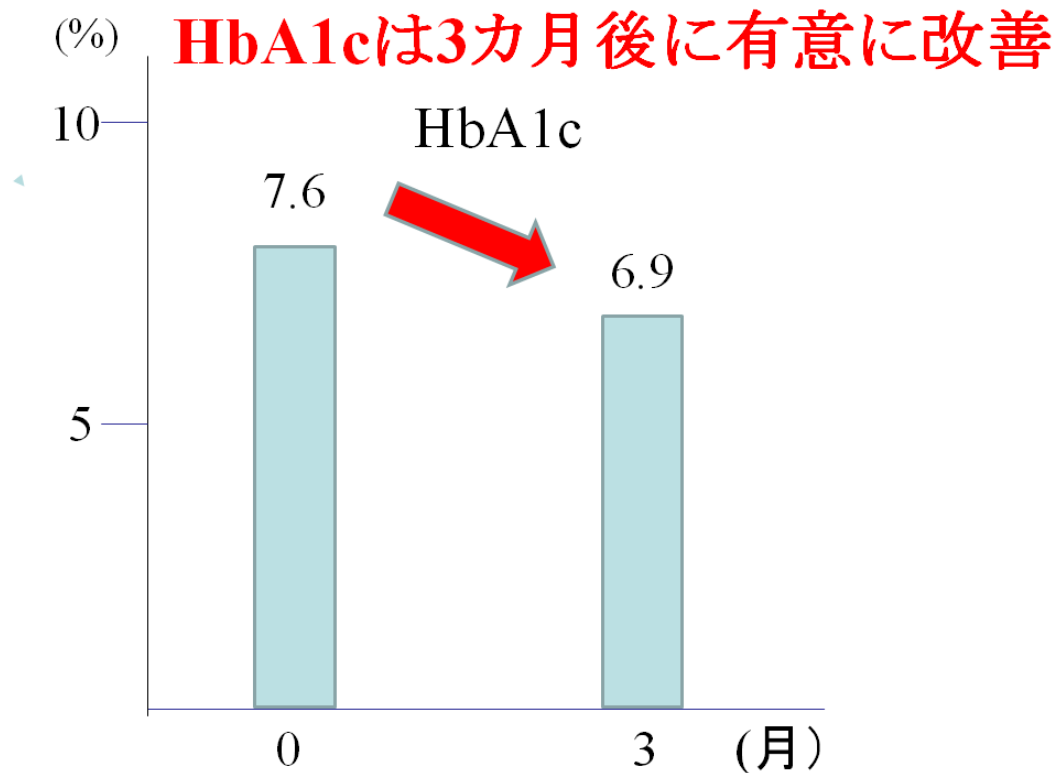


労働者健康安全機構

九州労災病院門司メディカルセンター

**◎退院後の逆紹介の推進に糖尿病地域連携パス
（3、6、12カ月後の定期検査）を活用する。**

2型糖尿病患者における週末2泊3日糖尿病短期教育パス入院による血糖コントロール改善効果(図2)



糖尿病プラクティス Vol.38 No.2 2021.

表 1

薬物療法は、食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、以下の条件を満たす患者さんで使用を検討できます

☒ 高血圧、脂質異常症、2型糖尿病のいずれかの診断を受けている

はい

☒ BMI が 35 kg/m²以上

はい

**薬物療法の
投与対象です**

いいえ

☒ BMI が 27 kg/m²以上で、以下のうち 2 つ以上の健康障害がある

はい

**薬物療法の
投与対象です**

☐ 耐糖能障害 (2型糖尿病・耐糖能異常など)	☐ 非アルコール性脂肪性肝疾患
☐ 脂質異常症	☐ 月経異常・女性不妊
☐ 高血圧	☐ 閉塞性睡眠時無呼吸症候群・ 肥満低換気症候群
☐ 高尿酸血症・痛風	☐ 運動器疾患 (変形性関節症：膝関節・股関節・手指関節、 変形性脊椎症)
☐ 冠動脈疾患	☐ 肥満関連腎臓病
☐ 脳梗塞・一過性脳虚血発作	

地域医療支援病院

第9回 医療従事者講演会のご案内

開催日時 : 2025年9月29日(月) 18:30~19:30

会場 : ①当院 7階会議室
②Web参加 (Zoom)

申込方法 : 下記メールアドレスへ参加申込

Mail : ijika-iji@mojih.johas.go.jp

又は 別紙申込用紙のFAX送信

(申込締切: 2025年9月29日(月) 午前中まで)

演題① : 「化学療法を受ける患者への
治療継続に向けた支援」

発表者: 黒岩 理香 (がん化学療法認定看護師)

演題② : 「当院での化学療法の現状 症例提示
～大腸癌編～」

発表者: 谷口 竜太 (第三外科部長)

♥ 「患者サポートセンター」をご活用下さい ♥

入退院支援・患者サポートセンター 体制

(センター長) 大西 英生

(医事課長) 三宅 仁史

(看護師長) 古賀さとみ

(地域医療連携室事務) 香月洋平 上田英理子 川野美穂 小山真純 本田美穂

(MSW) 桂川陽子 前原知香 大石夏喜

(入退院支援看護師) 野副可奈子 岡本紀美子 村枝絹代 柴崎直子



〒801-8502 北九州市門司区東港町3番1号

TEL: 093-332-7616 (連携室直通)

093-331-3461 (病院代表)

FAX: 093-331-3466 (連携室専用)

PHS: 093-332-1250 (連携室担当看護師)

